

2025年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(最終報告)

| 学校教育目標 | めざす子どもの姿(中期的目標) | 総合評価 |
|--|---|---|
| 敬・和・創 | 敬: 人を敬い、人から信頼される生徒 和: 人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創: 自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒 | (成果) ・合唱活動や地域に開かれた学校づくりの取組では、発表会に向けた準備や練習の段階から、生徒が主体的に異学年と合唱の交流をする機会を設けたり、防災教育として、生活の中で起こりうる災害にどう備えるかをまとめた防災フェスを企画したり、地域や保護者の方に参加していただき、生徒が探究のプロセスを積み重ねながら、地域における防災を自分事と捉えることができた。 ・アンケートの結果から、生徒同士だけでなく、生徒と教職員との関係の良さが感じられ、楽しい学校づくりにつながっている様子が示された。日々の生徒たちの学校生活や授業の楽しさにつながっていると思われる。 ・「あいさつ」清掃」「授業中」生徒会」「自己の生き方」「相談できる環境」に関する項目についての評価では、学年が上がるほど子どもたちの肯定的な回答が多く見られた。生徒自身の成長とともに、仲間や職員との信頼関係が深まってきた成果であると言える。 ・校内フリースクールの居場所である「サポートルーム」を開設して4年目、一定数の生徒の利用があり、不登校・不応の未然防止につながる居場所となっている。サポートルームの運営についても、県内外から視察や見学があり、情報提供や共有をするとともに、今後の運営や取り組みに生かしている。 ・2年目となる地域公開講座では、地域講師による19講座を開講した。生徒にとって、多くの地域の方々との交流の場となった。 |
| | 重点目標 1 (敬) 【生活習慣の確立】 さわやかな挨拶・心をこめた清掃・時を守る行動 生徒: 基本的な生活習慣の確立 職員: 生徒の可能性を引き出すファシリテーター | (課題) ・コロナ禍前に行っていた「四者会議」に代わる活動として、2年前から「地域公開講座」を開設し、地域の方を講師に文化や芸術に触れる機会を設け、持続可能な地域連携の場として実践してきた。今後も新たな地域連携の形や内容を検討し、地域との交流やつながりをさらに活発にしていきたい。 ・家庭学習への指導・助言を充実させたい。生徒が学ぶ意義を感じ、生徒自身が必要感を感じる学習の支援を行っていきたい。 |
| | 2 (和) 【開かれた集団づくり】 合唱を通じた集団づくり・ニーズに応じた多様な学びの場・伝統の黄色いリボン運動 生徒: 自他を認め合い、自己肯定感を高める 職員: 共感的な人間関係を育む関わり | |
| 3 (創) 【前向きな学習への取組】 合唱を通じた集団づくり・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び 生徒: 自ら課題をもち、友と関わりながら学びを深めていく学習 職員: 生徒がわかって楽しいと思える授業改善 | | |

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 | ○成果と▲課題 | A | B | C | D | 今後の展望 |
|------|--------------|--|--|--|---|---|---|---|---|
| 教育活動 | 生徒指導 | 規範意識の育成 | 学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか | ○大半の子どもたちが落ち着いて生活している。 ○子どもたち一人一人に寄り添い、居心地がよい学校の雰囲気がつくられている。 ○生徒同士の関わりを大切にきた対話的な生徒会活動や授業を通じて、お互いを認め合う雰囲気が高まっている。 | | ○ | | | ・学校生活のルールについて、保護者や生徒の意見や要望も尊重しつつ、一貫性のある指導を心がけ、生徒たちに寄り添った適切な支援、指導を行う。 ・活動毎にふり返りの時間を十分に確保し、自他の成長を実感できるような時間を大切にす。 |
| | | 素直さ・感謝の心を育てる | 職員は、生徒の努力やがんばりを認め、あたたかい言葉がけをしているか | ▲保護者からの要望にも寄り添いながら、より適切な指導支援ができるよう、個々の生徒へのアセスメントをさらに充実させたい。 ▲本校の「授業スタイル」を毎時間の授業で位置づけ、学習規律を高めるとともに、マナー面の向上を図りたい。 | | ○ | | | ・対話的、協働的な活動をさらに充実させ、風通しのよい学年学級づくりを継続していく。 ・職員同士がお互いの授業を見合い、良さから学び合う「ぶちっつと自由参観」を来年度も継続し、新しい校内研修のスタイルを更新していく。 |
| | | 開かれた学校・学級づくり | 職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを発表しあえる共感的な雰囲気づくりに取り組み、楽しく、和やかな学校づくりに努めているか | ○職員がICT機器を効果的に活用しながら、生徒の個別最適な学びをサポートすることができた。 ○各教科で学習問題や学習課題を明記し、追究に向けた手だてについて研究が進められ、題材によって「自由進度学習」を取り入れるなど、生徒の実態や興味関心に合わせた授業改善をおこなえた。 ○定期テスト前に位置づけた「教科質問タイム」により、生徒たちの主体的な学びを引き出すことにつながった。 ▲授業における協働的な学びについて、各教科でICT機器を活用しながら、対話を重視した活動を取り入れるなど、工夫をしていきたい。 ▲家庭学習、自主学習への動機づけや具体的な助言を充実させたい。 | | ○ | | | ・ICTの活用をさらに促進し、情報機器の操作性、技能の向上はもちろん、生徒の学び方学ぶ場の多様化や学びの機会の保障につなげていく。 ・校内外において、スマホやPC等の情報機器に触れる機会が増加している状況からも、今後も教科で利活用を促進するだけでなく、全学年において情報モラル教育を推進、ネットリテラシーの向上を図る。 ・授業におけるルールや約束を、誰でもわかるような形で「授業スタイル」と明示し、全教科において指導の徹底を図る。 ・定期テスト前に行う「教科質問タイム」を一層充実させ、生徒たちの主体的な学びにつなげる。また、家庭学習が充実するような指導・助言を工夫する。 |
| | 学習指導 | 分かる授業 | 職員は、本時の学習内容を生徒にはっきり伝え、発問や板書、教材の提示方法等を工夫しながら分かりやすい授業にしようとしているか | ○職員がICT機器を効果的に活用しながら、生徒の個別最適な学びをサポートすることができた。 ○各教科で学習問題や学習課題を明記し、追究に向けた手だてについて研究が進められ、題材によって「自由進度学習」を取り入れるなど、生徒の実態や興味関心に合わせた授業改善をおこなえた。 ○定期テスト前に位置づけた「教科質問タイム」により、生徒たちの主体的な学びを引き出すことにつながった。 ▲授業における協働的な学びについて、各教科でICT機器を活用しながら、対話を重視した活動を取り入れるなど、工夫をしていきたい。 ▲家庭学習、自主学習への動機づけや具体的な助言を充実させたい。 | | ○ | | | |
| | | 集中して取り組む授業 | 職員は授業時間を守り、授業での追究方法を工夫し、一時間の授業に集中して取り組ませているか | ○個々に寄り添った支援の中で、生徒の多様性にに応じた居場所づくりができています。 ○校内フリースクールの居場所「サポートルーム」が開設4年目になり、居場所の必要性や取り組みが広く知られ、不登校の未然防止や支援の多様化につながっている。 ○毎月の生活アンケートが、生徒同士のトラブルの早期発見・早期対応に役立っている。 ▲本校生徒会独自の取組である「黄色いリボン運動」の意義や目的を、さらに全校に周知し、今後の生徒会の伝統的活動として大切にしていきたい。 ▲歌声が響く学校を目指し、これまでの合唱に親しむ取組以外にも、継続的に日常の中に合唱を位置付けられるような活動を生徒会中心に発信していく。 | | ○ | | | ・本校の合唱活動の位置づけを、全校・学年・学級の集団づくりの手だてとしても大切にし、年間を通して取り組んでいく。 ・個々の生徒に寄り添ったきめ細やかな指導を心がけ、相談室、サポートルーム、特別支援教育と連携しながら、生徒にとってより良い支援を考えたい。 ・全校がお互いの多様性を尊重し、認め合う雰囲気をこれからも大切に育んでいく。 ・本校で伝統的に続けられている黄色いリボン運動等の活動の意義を、生徒会を中心に、毎年全校で確認し、共有することで、意味のある活動にしていきたい。 |
| | | 家庭学習への支援 | 職員は、教科の専門性を生かし、生徒が自己課題を明らかにし、家庭学習への見通しが持てるような助言をしているか | ○生徒が主体となり、計画された各委員会の取組を尊重し、できる限り計画を大事にしなが実践実行できるよう、職員間で連携支援している。 ▲生徒会活動が有意義な活動となるため、準備・反省時間を確保し、活動の目的や計画がどうであったかを生徒たちで考える場をつくっていきたい。 | | ○ | | | ・生徒が主体となり、十分な準備時間や活動時間が確保できるように、生徒会の時間を位置付けるなど、支援していく。生徒が計画した活動なども、できるだけ実行できるよう、支援体制を整える。 |
| 教育課程 | 歌声の響く学校づくり | 職員は合唱に親しみ、歌う喜びを実感できる場づくりを声かけ、歌うことを楽しむ生徒を育てているか | ○個々に寄り添った支援の中で、生徒の多様性にに応じた居場所づくりができています。 ○校内フリースクールの居場所「サポートルーム」が開設4年目になり、居場所の必要性や取り組みが広く知られ、不登校の未然防止や支援の多様化につながっている。 ○毎月の生活アンケートが、生徒同士のトラブルの早期発見・早期対応に役立っている。 ▲本校生徒会独自の取組である「黄色いリボン運動」の意義や目的を、さらに全校に周知し、今後の生徒会の伝統的活動として大切にしていきたい。 ▲歌声が響く学校を目指し、これまでの合唱に親しむ取組以外にも、継続的に日常の中に合唱を位置付けられるような活動を生徒会中心に発信していく。 | | ○ | | | ・本校の合唱活動の位置づけを、全校・学年・学級の集団づくりの手だてとしても大切にし、年間を通して取り組んでいく。 ・個々の生徒に寄り添ったきめ細やかな指導を心がけ、相談室、サポートルーム、特別支援教育と連携しながら、生徒にとってより良い支援を考えたい。 ・全校がお互いの多様性を尊重し、認め合う雰囲気をこれからも大切に育んでいく。 ・本校で伝統的に続けられている黄色いリボン運動等の活動の意義を、生徒会を中心に、毎年全校で確認し、共有することで、意味のある活動にしていきたい。 | |
| | 不登校・不応生徒への支援 | 職員は生徒の困り感や個性を理解し、一人一人に寄り添って支援をしているか | ○生徒が主体となり、計画された各委員会の取組を尊重し、できる限り計画を大事にしなが実践実行できるよう、職員間で連携支援している。 ▲生徒会活動が有意義な活動となるため、準備・反省時間を確保し、活動の目的や計画がどうであったかを生徒たちで考える場をつくっていきたい。 | | ○ | | | ・生徒が主体となり、十分な準備時間や活動時間が確保できるように、生徒会の時間を位置付けるなど、支援していく。生徒が計画した活動なども、できるだけ実行できるよう、支援体制を整える。 | |
| | 人権感覚の育成 | 学校では、黄色いリボン運動・春と秋の人権教育旬間の取組等を通して、生徒の人権感覚が高まる環境づくりや指導をしているか | ○地域の方を講師に、様々な講座を開講した「地域公開講座」を行い、地域とのつながりや、地元への愛着を深めることができた。 ○3学年総合的な学習の時間において、防災教育として様々な災害に対する対策や対応を、市危機管理防災課や県建設業協会、NPOなどから学ぶ前授業を行い、生徒主体で計画し、学ぶことができた。地元の方や保護者と「防災フェス」を通して交流することで、地域で生活する一員としての自覚を促すことができた。 ▲地域連携の方法をさらに充実させたい。 | | ○ | | | ・地域公開講座や地区行事を通して、地域との交流を行うことにつながりを深めていく。 ・学校の諸活動を支援できるボランティア等の人材確保を、地域ボランティアコーディネーターとともに連携し、目指していく。 | |
| | 生徒会活動 | 学校は生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか | ○学校便りや学校HPをはじめ、学年学級だよりも写真を多く活用し、視覚的にわかりやすい内容で発信することができた。 ▲保護者や地域が必要としている学校の取り組み等の発信もあわせて行っていきたい。 | | ○ | | | ・タイムリーな情報発信、視覚的に惹きつける話題などを心がけ、学校教育への理解を図る。 | |
| 学校運営 | 地域との連携 | 愛郷心の育成 | 学校は、地域への愛着を高め、地域との連携を深めるための工夫をしているか | ○地域の方を講師に、様々な講座を開講した「地域公開講座」を行い、地域とのつながりや、地元への愛着を深めることができた。 ○3学年総合的な学習の時間において、防災教育として様々な災害に対する対策や対応を、市危機管理防災課や県建設業協会、NPOなどから学ぶ前授業を行い、生徒主体で計画し、学ぶことができた。地元の方や保護者と「防災フェス」を通して交流することで、地域で生活する一員としての自覚を促すことができた。 ▲地域連携の方法をさらに充実させたい。 | | ○ | | | ・地域公開講座や地区行事を通して、地域との交流を行うことにつながりを深めていく。 ・学校の諸活動を支援できるボランティア等の人材確保を、地域ボランティアコーディネーターとともに連携し、目指していく。 |
| | | 地域から信頼を得る | 学校は、学校便り、学年・学級便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を丁寧に発信し、学校への理解を深めることに尽力しているか | ○学校便りや学校HPをはじめ、学年学級だよりも写真を多く活用し、視覚的にわかりやすい内容で発信することができた。 ▲保護者や地域が必要としている学校の取り組み等の発信もあわせて行っていきたい。 | | ○ | | | ・タイムリーな情報発信、視覚的に惹きつける話題などを心がけ、学校教育への理解を図る。 |

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった